

第20回諏訪東京理科大学公立化等検討協議会 会議録（概要）

日時：平成30年3月26日（月）
午後3時10分～午後4時10分
場所：茅野市役所 8階 大ホール

【出席者】

岡谷市：今井市長、岡本企画課長
諏訪市：金子市長、前田企画政策課長
下諏訪町：青木町長、伊藤総務課長
富士見町：名取町長、伊藤総務課長
原村：五味村長、宮坂総務課長
長野県：青木県民文化部長、青木私学・高等教育課長
神林諏訪地域振興局企画振興課主査
茅野市：柳平市長、樋口副市長、柿澤企画部長、小平企画財政課長
加賀美大学準備室長、内山室長補佐兼係長、牛山係長、金井主事
大学：唐澤理事長予定者、河村学長予定者
（学校法人東京理科大学）森口理事長特別補佐
（諏訪東京理科大学）入江事務部長、牛山次長
広域連合事務局：松崎事務局長、林企画総務課長

【公開・非公開の別】

公開

【会議内容】

1 開会

2 会長あいさつ 茅野市長

3 報告事項

(1) 第19回諏訪東京理科大学公立化等検討協議会の会議結果について

≪事務局（茅野市）から報告「資料1」≫

(2) 第4回公立大学法人評価委員会の会議結果について

≪事務局（茅野市）から報告「資料2」≫

質疑応答 報告事項について

質疑なし。

4 協議事項

(1) 公立大学法人公立諏訪東京理科大学「中期計画」（案）について

≪理事長予定者、学長予定者、事務局（茅野市）から説明「資料3-1～3-4」≫

質疑応答 公立大学法人公立諏訪東京理科大学「中期計画」（案）について

（会長：茅野市長）

ただいま中期計画（案）についての説明があったが、この件について意見や質問はあるか。

（意見）15ページの3-(1)-ア-「(イ) 産学官金連携による交流活動やネットワーク強化」に、茅野・産業振興プラザと記載があるが、例えば、岡谷市や下諏訪町にも同様の組織があるので、各6市町村の中でそういった組織があるのであれば、ここに記載した方が良いと思う。研究や勉強会などで企業の方たちが集まっているので、そういったところと産学連携していくことも重要であると思う。

Q. 一点質問であるが、この予算は6年間の予算ということで良いか。

A. 6年間の中期目標に対応して6年間の中期計画を作成させていただいた。中期計画中の予算の部分についても6年間のトータルのものになる。

（意見）ここで学ぶ学生たちが、「良い学びができた」と感じて、全国へ広がっていただけたことがこの大学の宣伝にもなると思うし、地域の宣伝にもなると思う。また、地域の企業の力にもなっていたらと思うので、是非よろしく願いしたい。

Q. 24 ページの短期借入金の限度額について、説明をお願いしたい。

A. 短期借入金の限度額については、他大学等も参考にしながら一般的な金額で決めさせていただいた。基本的には組合で積立をしているので、大学で一時借入をしなければいけないような状況は発生させないように考えている。しかしながら、もしもの事も想定し、この金額を設定している。

(意見) 中期計画(案) そのものということではないが、長野県でも新しい総合5ヶ年計画を策定する中で、今後の将来的な課題として、学び直し(リカレント教育)を大きなテーマとしている。そしてその機会に大学が果たす役割が非常に重要であると思っている。計画の中にはチャレンジプロジェクトというものがあり、その中で「人生のマルチステージ時代における多様な生き方の支援プロジェクト」というものを掲げており、よりよく働くための学び直し(リカレント教育)の機会の充実、再チャレンジの応援ということを挙げている。今回の中期計画に直接関わるものではなく、今後の課題としてリカレント教育の充実についてご検討いただきたいと思っている。長野県としても、そういったことを長野県全体でどのようにしていくのかということを考えていかなければならないと捉えている。

(会長：茅野市長)

この検討協議会での意見や第4回の評価委員会の議論も踏まえ、まだ若干訂正が出てくるかと思うが、基本的な方向としてこの中期計画(案)に沿って、最終調整を進めていくということで良いか。

(各委員)

良い。

(会長：茅野市長)

それではこの中期計画については、4月に予定している正副組合長会議をもって決定していきたいと思っているのでよろしくをお願いしたい。

(2) 学校法人東京理科大学と公立大学法人公立諏訪東京理科大学との大学間連携に関する協定の締結について

〈理事長予定者、事務局(茅野市)から説明「資料4」〉

質疑応答 学校法人東京理科大学と公立大学法人公立諏訪東京理科大学との大学間連携に関する協定の締結について

(会長：茅野市長)

この件について意見や質問はあるか。

Q. 第3条の中に「定期的に協議の上、・・・」と記載があるが、現状でも行われていることなのか。

A. 現在は、特に行っているわけではない。現状では、学校法人東京理科大学の中の組織として活動をしているため、学長が理事会へ理事として出席することにより、毎月定期的に情報交換はしている。しかし、今後は別々の団体となり、研究活動等を一緒に行っていく場合には、ある程度定期的に情報を交換していくことが必要となるので、こういった形で協定を結ぶこととなる。

(意見) この協定書については、最初の検討の時から学校法人東京理科大学へお願いしている部分である。幅広く記載していただいて大変ありがたい。

その中で、有効期間として「2年間」という記載があり、その上の実施方法として「定期的に協議の上」という記載があるので、定期的というのほどの程度かということにはなるが、この部分は是非力を入れていただき、学校法人東京理科大学の方からも支援をいただきたいと思うのでよろしくをお願いしたい。

(補足) 本日提示した資料の中で東京理科大学の学長に関する部分があるが、現在記載されている学長が任期満了で変わる事となっている。4月以降で新学長になったら、学長の名前が変更になることだけご承知おきいただきたいと思う。

(会長：茅野市長)

それでは、大学間連携に関する協定については、この内容で進めていきたいと思うのでよろしくをお願いしたい。

(3) その他

(意見) これから新しい学生が入ってくると思うが、学生生活が勉強以外の部分でも魅力が多いと嬉しいのではないかと思っている。大学内には学生たちの組織があると思うが、サークル活動やクラブ活動などそういったものも充実してほしいと思っている。学生組織がやることであるかもしれないが、4年間の楽しい学生生活はとても大事であり、それがまたこの大学の魅力にもなってくると思うので、御配意いただければと思う。

(回答) 学生たちが楽しく過ごし、お互いに、そして先輩、後輩とも交流しながら成長していくということは大事であると思う。そういった活動を支援していく体制を事務局に作っていく。公立化したらますます活発な学生が来ていただけると期待しているので、そういった部分にも力を入れていきたいと思う。

5 その他

・公立諏訪東京理科大学の校章・ロゴマークについて

《事務局（茅野市）から説明「資料5」》

質疑応答

(会長：茅野市長)

この件について何か感想等はあるか。

Q. 色に関するルールはあるか。一般的にはスクールカラーのようなものがあると思う。

A. ロゴマークに関しては、基本的な色は決定しているので、資料に提示してある色が基本色となる。

しかし、白黒で使用する場合もあるのでその場合には白・グレー、黒・グレーといったようになる。

校章については、基本的な色はまだ決まっていない。今回はイメージとして提示させていただいている。大学のスクールカラーはグリーンになるので、グリーンをベースに最終的に色を決定していく。

・平成30年度公立諏訪東京理科大学入試状況について

《事務局（諏訪東京理科大学）から説明「資料6」》

質疑応答

質疑なし。

6 閉会